

筑前漢風古記

四

内閣文庫			
函	冊	號	類
二八	二八	一六五三	和書類

内閣文庫			
函	冊	號	類
七	七八	三五五三	和書類

内閣文庫		
番號	和	16553
冊數	28 (4)	
函號	176	49



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

筑前國破風土記卷之四

增

佐吉

柳園寺

松月庵

春吉

瀧原

常光寺

藤原社

日蓮院

三子辻

聖徳

東光院

馬出

大徳寺

美濃

本堂社

大徳堂



筑前國續風土記卷之四

那珂郡

住吉社

春吉

澳夷社

堅糟

妙徳寺

文珠堂

妙圓寺

濡衣

自性院

東光院

蓑山

松月庵舊跡

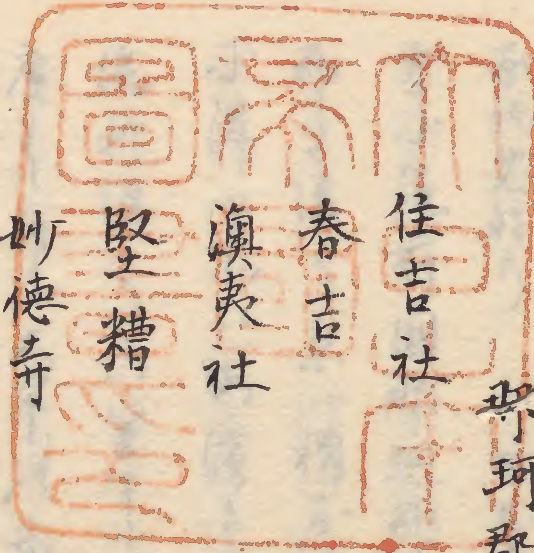
崇福寺 秀海墓

七ヶ辻

馬出

志賀社

明治十年購求





文教堂



西園寺

東山

日村

日村

日村

日村

那珂郡上

日本記

承初史形

日本書紀

淳和天皇天長三年七月七日慶

雲小筑前國那珂郡之河川世也己之那珂書多り其の郡西早良
郡之隣り東に糟屋郡唐田所並郡に隣り南に山と隔て肥前
小藩に小川海濱に隣り其の東西に南に長に中那珂河川
流れ流るる六里に隣り其の河川水皆堅小に隣り田也小鹿車
廣く存小大旱に歲と之とも旱損の愁ねに隣り山に隣り其の
我之に隣り其の郡中にも福園地多有り其の交易も不
宜其大抵園の東西に中央にあり其の四方運送も便り其の園
形も有り那珂に隣り其の郡の各九あり

和名抄に載る不世那の郷の各九あり

田東

曰依 今日依と云村有り上下有村小分
今日の名と曰と云村有り

那珂 今日村の
各あり

良人

海部

物多福星の道内也

中治

物多福星の道内也と世世と中治と云い

山口 板寄

二宅

此の居小

今杯もろ不の村名

今泉村

葉院村

庄村

下登志村

大渚谷村

平尾村

高宮村

野呂村

清水村

佐原村

三宅村

和田村

野多目村

老石村

片鏡村

若久村

倉形系村

西隈村

東隈村

道善村

今光村

別所村

西畑村

南宮村

成竹村

不入道村

玉筒山村

一瀬村

埜津村

山田村

仲村

仲原村

上泉村

河長村

上野志村

上日依村

下日依村

横手村

次久村

小倉村

春日村

井相田村

麦野村

縮園村

板付村

井尻村

五十川村

竹下村

那河村

東光寺村

比惠村

住吉村

春吉村

大飼村

辻村

西望糟村

赤望糟村

馬出村

合平村

坂口村

志加志

安徳村

上橋系村

下橋系村

松本村

五郎丸村

住吉社

住吉村より延喜式神名帳より筑前那珂郡より住吉社に在り
 神より住吉村の物多乃南乃所より住吉大明神の座在
 村の名をせり凡住吉大明神の座在男命申箇男命表箇男名
 の之神形り世に神ハ伊弉諾乃後葉日向乃小戸の橋乃根系乃
 海乃乃濁程と後除し如く時化生し如く九神の内
 あり神代より世所より法中より如く日御神代上志を考ふ
 曰 伊弉諾乃古乃乃濁程と後葉日向乃小戸の橋乃根系乃

紫日向の小戸の橋乃橋系小幸りゆしては是後一女子還不
身のきま形もめとまき形つんとて別具言してのいゆ
く上ッ漸は是まもや一下ッ漸は是まも一や室より別中ッ
漸くもま形もよへて以てはめ形神は是も八十在津日神
ヨリは次よりま在まるは直まるとしてはる神と号して中津か
臺命やヨリは次より中箇男命又潮のよく漂置因てはる神を
表津か臺命ヨリは次より表箇男命とて九神とて其箇男
命中箇男命表箇男命は是別位吉大神神あり表津か臺命
表津か臺命ハ是阿曇雲連等つりまある神之世神ハ是阿曇雲連等神代卷
小記やちめ形其八十在津日神神直日神大直日神ハ神代卷小
ハ川きの布もあつち事と記して今華院の色小幸り末乃
勢多ハ神ハ世之神形も一社家ハ之体ハ主事ハ福名郎ハ伊
記ハ伊
紫儀等の化生してはる二神ハ皆世國の内位吉志賀と江産

如ハ世國より化生してはる一車籠ひかしてはるや日向國小幸の
九神も産ま家とや記してはる神代の卷より小戸の橋の橋系ハ既
前と可有と日向の何とや蓋上古い國方はる一既業日向の
るハ九國の惣名形も其地一列はる上代ハ既業列も名付
たりはる藝命の記も世地ハ向韓國真奈通並叶之御弟而朝
日之真刺國夕日之日照國形もこのよきハ世多とよと既業
の事と記して日向のよとや室も既業ハ日本の西ハ既業を海中
く有國形ハ朝ハ東方のりも向ハ夕ハ西方の目小幸り九
列もまも日向のよと記も然中既業ハ韓ハ向ハる
國して夕日してはる今の日向の國ハ名ハ
景行天皇の御時ハ始まる凡日本の國をわらわらるる
ハ成務天皇より以後の事とて神代ハ日向の國ハ
既業形ハ之を分り又日向記私記ハ位吉之神本既業ハ小戸

くわりの秋日本紀曰任吉の神本在菟前小戸即 神功皇后

初遷居於傍津焉以年宗研法師云橋小戸菟前國之北是於

り於此神下中折く曰任吉神本菟前小戸之わり又古事記と

りて曰任吉大神世荒津魂者常世菟前橋小戸和魂今在傍

津焉以年 神功皇后初遷居於傍津焉以年宗研法師云橋小戸

菟前之わり有説指形くされいり彼九神皆菟前小戸ありて日向小

戸之わり況日向國く小戸の橋の傍系云云云云或日向國小於

強て小戸の地を求むんとして神代抄小戸の今日向小戸聖心

之書り世説を述ゆり何之形れい是を日向の國の人之いひし小

戸聖心と云ふ有らん小戸の聖心と云ふ有らん神代抄小戸

後凡と号す聖心一統く日向新戸後凡鸕鷀等其有る不々尊

是形り是日向のわり新戸くして小戸くわりて年明かり

今菟前國中く移りて居る事小戸の菟前小戸の菟前

那乃佐土郡くわり青木志麻郡及摩田郡くわり任吉神産也不

河頼有ゆ所形れ神代卷く此叶くして古人の説く世神本菟

前小戸く在とつして任吉神の傳り有と小戸の橋の傍系云云形りて

是も小戸の橋傍の系とて任吉の地なりと決定す

神功皇后之韓と平け形りて世御神の冥物有る事ありて

如記く我多り傍津國長門國の任吉也 神功皇后の附初

波布くはるり形りて任吉と云名は 皇后乃此任吉大神皇太后の初

説して四方を循りて傍津の地に至りて宣言して曰真任吉の國

りて因て之をくはるる事ありて名け任吉とて是く依て世列の任

吉菟列の任吉の名もかこれり秋日本紀く世神の荒所魂は菟

く有能和魂是是はわりのの皇太后の御心是を委り給りて

わりの家説をいひて是は世那柯の任吉の神代りは在の地

く長門御付の任吉の本初成事つちありて世社今村中も伝

ふ内ねとまゝにひらきし初進信凡公章の中やあはれしきものも有給
く道の正道の頭ありてれ母しりて

神垣のむすむすのまの葉も土加道くまやねのや

右宗徳のつみひのふくみ一木わらふ今の木は其種をまかすもま

社は神宮依伯昌初としり者有て治養三年伊豆國へ流され坐し

けきいふしりしけきいふ昌助り弟住吉小左衛門昌長治養四年七月廿日

初て頼朝のむすむすに弟又此日永は藏人大中に頼澄も同じ頼朝のと

とてまゝと見えし伊勢大神宮初友の後ねとせ世為人の弟とす

海部のあふりかの志保まなぶとの志とも附せられ也い初橋り

為ふ門下の何修とやうきまゝのれ同年八月十六日昌長は天智地府

のあふりて奉仕し頼澄は千度の橋と初て頼朝自ら御澄を取ら昌

長小授給し是の明日の合戦り利運の初らりてあはれをまじ

くと相立ナ七日山木判官兼澄と頼朝河原橋り伊勢大神宮初友の後ねとせ世為人の弟とす

頼朝々の家霊長と感し給ひし多し神代も書附し給ひし

やうにあり又建武三年乙未九月九日下向り河原橋神く初て神代書

述有りし文書今も至し神代書小書れ其文章ふ云

寄進筑前國 一宮

豊前國河崎庄也

右今度之義兵遂本望祈 天下之安寧家門繁昌

所寄進如件

建武三年三月八日 源朝臣 書判有

其後初め西國へ歩進へ給りて天下の武おし仰り給ひしつはまを多

く神代と奉らふまを右の書及て并の文書と後初一宮住吉宮

と侍り今箱崎宮と初一宮といふの以何系の改定けりて

後此世中成徳多我々の巻も初初名も市をさし神代も後

収りし世所社も荒き奉礼も魂や強り社人も郷里の去氏も初

神道
百首

之石の小戸の御宿とくくくくく今も清むる様なり

妙圓寺

住吉打くくく法華山昌林院と号す又恩院の末裔なり如く之の妹尾上
妻也の宣長政公入國の後尼と知妙圓と号す又佛道と号す世の塵俗と
いひ世所ふ小戸を志あり住吉と世人並遊ゆくくくくくくくく
い何れも人を苦しむるに福をの城ふけくくくくくくくくくくく
けくくく信を奉くくく福成尼と号すくくく蓮花の上人と云信地
くく世所ふまうくく妙圓尼の依り如く別居宅と蓮花小滝と
自らくくくく妙圓と住吉とくく世所蓮花上人と云くく昌林院と号
蓮花と号す開山なり元和四年三月廿八日妙圓尼と号すて折ふ如くけ
れくく別居ふ華く其妻ありく住持画像も妙寺小有り是よりくく
妙圓と号す海に長政公の叔母なりいふ所のくく産と寄所く折ふ今も
望ふいけせ

松月庵高師

東福寺の僧正徹書池字信岩和親とくくく書法くくく
後花園院永享の以海ありく下り年次なり所多し其又同所と号
徳康公のころ再世圓く下り哲兼天皇ふ住りふり此世住くく小戸
汝姓ひくく信久部ふくく時の庵と名けり庵と名せりくくくく
く名汝用て松月庵とて冷泉家より田舎住り何れも愛めり人
ひかきせりくくく善小 云りく部も部も住吉といひ而も住吉の
里と濁くく送りけり住吉とて濁くく親多し平生濁くく親二万七
千首二十全帖くく書法くくく今慈那の菴境くく善く島有とけり
ぬ世事善根具ふくくあり住吉の松月庵の跡方一所斗りく布を
正徹写し云肯世迎すて汝御満ちる所ありく右殿くくく福堂の
儀有其實置けり井泉埋ま強りて南庭の松下小あり正徹の井ま云
正徹く書家松月庵の額傳りて今の庵に於軒小ありけりあり

とくは誰かゝるや光之公の筆名を記し皇幹於て世人凡流因致と
好みて正徹の白毫と慕ひ世所小別墅を構へ暇日小遊朝
夕の祇好してゆれの遊觀に年々味増ふゆくはけき遊志齋の處
て紫の慕と樂のゆきくくつひくくも定くくも事わたり光之
公細路も巡路の序云くくも好みて佳境を賞し好り
松月庵の東福の白毫山下の傍正徹書地字法若の位也一和於之正徹
の書地終一和歌と終一て世小吟きり

後小松院席今

川伊勢も貞世強辯探頭として後希く下向の附正徹意形とて幸為
九男也一家和歌の冷泉為尹卿の門中として也貞世の指南ややを
歌集と草根集とを門人集あり岡白兼房公を割言於東福とて
粟兼房の一法小松月庵とて小庵を構て住けを東福のゆき松
月庵作りて今も和行り女のみ 然らば松尾也庵の鳥もあひ相
のまきの杜のま月と云歌世と誦一ありと一ゆは有て小松小

死流也一家小神の庵をば松月庵と号す世所一そ年の暮小思葉小世あひ
遊中一も小松意形とて古師と飯らん也と今日の夕くれと云秀文
ゆらんて死木の飛とやうし東福寺小師の庵正乃以七十餘歳之
一東福寺同此物多兼天と下りて惣住り家一和歌の事も祈り
便り有やと世住吉原社乃山の海辺小松庵談言と定あり松月庵を
稱してあ年のより住世以冷泉家より消去して夷中住居とて和
あつらんとのこしひきされしと あり下りひかも都と住吉と云
而此住吉の里は清く遠く家もさう彼乃鍍の荒ゆる跡小松
川一馬多らんびり此門は乃野句る草々く強く礎世庵とて
清く交略して祀也川もさひつもつて此ぬもえ一人も世小
もまくと好むておのけつるけつるけつるやのそもろも思ひ月も
ありゆい ありゆいありゆいありゆいありゆいありゆいありゆい
ありけ家 又庵の邊小井とてありて小井今た

かの川より志なる處を相度ふゆふのいさゝ井の水
正徳の長祿二年五月十九日七十九歳にて棄せり
世に奉養せよ
年書ふありて書ふ月日の事とせしめし方意有し

春吉村

住吉村の西よりあり初に住吉村の境内あり慶長七年の比別村と称す
されども世にいつい氏家あり世地の田畠は作の農人いり於此多市中小
住久實永十六七年の以りり忠之公世所を初に宅地として之を
と多しかり世に春吉と号せり昔住吉九月の祭あり四月の初
より末まで交易をせりけり市場なりし人多く其社に
穀物に商人の爲に踏去りて其地よりひと細く事ありしは其妻
との作りけり春の作りゆりゆりといふ言ふては春吉と名付り也
然んば春吉村吉村と云ふ地名もあき其類なり但世に信託も多し
しりて附合せり

濡衣

聖武天皇の御所御所 近世之云人毎亦もし下りし村系より具
しある書圖より死々家より世國より女の書よりけりしと書
せり娘を継母よりくくく何れもして世娘を失りんと思ひ商人を遣ひ
て云世境ありて之を柳の娘君の世に夜に我許へまゝり
るり泊衣を穿てかゝりしと云ふとて此の宝とせりし商人
某境ありて某を頼みしことく言らるふ云りれは父をせめてたて
行てそれ娘めれぬる衣を引取りて外せり是は娘の寐入り
ぬる時継母の着ぬる衣なり父をたたりし事と云ふては
しり娘を教へけりて次の年娘父の夢よりくくく二首あり
被と誦しり父又着て娘の魂を印事と悟りては継母の仕
業終りしと書と送る物し其身が家より肥前松浦より住せり
世に松浦上人と云はるしりては某名おびぬるとい濡衣書

もつひに傳く歌も謗傳る其娘の養育者福寺西門の劍ふり
し此世より移る今名場相承の西乃橋原物多の東石堂の
の川の集り例の池の内くは大成をとりてこそ文の若ふ
そし娘の讀ける歌

ぬきしむらゝのたもりの漂衣の長き形も石のたけりけり
漂衣の袖りつたふ洞をねりて流るよりけりけり

宗福寺

四修院仁治元年く法慧と云俗を寧府横岳小寺と建立す相承年重圓師
圓尔太宗より西園く物多小つく法慧と法して同堂法法くし重圓師
徑山の佛燈祥師無準和尚能書けりし束賜百年宗福祥師の扁額以
自筆しして重くよふ重く其額を打めり世承く揚て寺号とす無準之
端の二寺と書事元亨初也
重圓師
年小 勅詔在り物多兼天寺と同門官寺と成而部法窟とす 勅額を

賜兼云仁治二年
圓尔劍之 其後圓尔東福寺く住持の町法慧より南浦明和尚と法し

て尚寺の閑山と云南浦、徑山虚堂和尚より弟子大徳寺閑山大燈圓師より師

大燈圓師二十四流宗源因記曰後希後岳閑山南浦明謙天燈圓師入宗嗣徑山虚堂揚岐二世為本朝一
流宗源此世并此俱出大燈 於り

龜山院文永四年小明和尚小勅有る圓通大燈圓師の跡を賜ふ太燈圓師也

ちて居位也一書二十三年於りその後 後二条院嘉元元年小勅と有る

京師為壽寺く住持せり是小依り尚寺の弟子即山和尚く譲りて住持

也其後彼法眷一派の長老交易住持し今小勅りて八三代小及り

り世もむし無業の地く寺号も多し其友宗禪の所も後重業

肥前く二百二十四町六段の田地世承の産けり物ふ小天正十四年七月

薩摩の兵岩屋乃城を攻落し一州世も程進けき其大寺小つて

物多の堂々悉く一州世も其時小勅り 龜山院後二条院

花園院の震翰勅額論片及虚堂より傳承の徑深是海珍墨堂

一町皆燒去りて其後再興より人もわく名のとけりて住りし

慶長五年長政公當國入主と成りて後大徳寺春分國師世尊再興
の事以預り子と爲え來春月小政依一室侍一好ひ一又此事を
願寺一春分下向有れ一や宮ひ一ふとも一八旬小なる遠國の
遊歷成訪一法如雲英和尚と指下ふ長政宣ひけ一室府福是り
を治ふ一々小多訪一か一宗福ふ法性多の東十里松の内小移
善院可く一とて今の此小経営せふ一聖年雲英上方にて遷
化せ一存小當る管化の事を春分中子に月和尚に依せ一春分遣一
て遷化の後い尚寺及大徳寺の内龍光院も小に月任ねし一室め
らる是一依と當る地任ね今小かろ一はるの法孫お續もかして數
年と移て寺此管化成終せり方丈二門佛友岡山塔法守社庫司
伯堂法室書院小庫裡法樓庫藏本門内門廊樂等悉く長政公建之
一好ひ如世外塔以三軒有塔多層一妙多寫高塔并宗室建之一心宗
居い江一和尚建之又一正徳寺長政公の弟久野外記入道十真建之也
り慶長六年一長政公寺に二百石寄附一好ひ是程寄附小好ひ一その後岡山
塔に六十石寄進せり家合二百五十石の寄進あり一岡山南浦和尚
横岳り佳境と撰ひ八景の名と定め一好ひ一日端居二日圓通園三日花
瀑岩四日此君亭五日長松嶺六日白蓮池七日甘露井八日霞渡藤世八境横
岳一其跡少あり今世不一は境形一こくも舊と善くし八境
の刻と方丈の糸と揚りあり世々此事一に之郡岳横の市小祀世寺小
如水長政公東市正澄政長政の
まあり後東市正之勝忠之公の
澄子好忠之公の夫人忠忠
院光之公の夫人宝光院の塔善石碑及位牌有り是く依と世の國
君系洋礼高し好ひ

秀海墓

其い川の町よりありけん宮傳秀海といふありき竹多石堂の東に於る處
く七日法流りして後形く兼補陀流く御と之稱一丈洋方兼出
其後行方と云ふは此時赤摩郡の者一人竹多三所の一人同知し

葉師堂の物山葉寺と云此寺物山の中亦有中葉師の傳教
朝の附彫刻ありや云常に秘佛とてみす葉師一皮用性火葉師
堂ハ 平城天皇万回元年小割之と云又葉師の側小葉光
院あり葉師堂を守り信打有年始に祥宗とて葉師堂に
あり寛永の末く信好月也と云信右律とてあり信好の事不
叶年ふちひをてか奔り世村文書文割并燒失り正保元年忠之
公再興し如子家士勝野長助後隆小奔しと云此寺ハ凡八月を懸
て御免せり正保四年忠之公命有て福島の事ありし頃ハ真宗の
傳免後坊と云子孫後ハ世を改めたりと云堂舎を改め造りて
ら子又葉光院の西より小葉師堂あり古葉師と云重徳寺子の傳也
云傳し今ハ夫て別小葉師佛と号し葉師堂ハ傳教ありと云
天氏天皇白風元年小建立せりと云寺と云光州と号し此葉師の
あり傳教の朝の附又葉師佛と傳て信好其宗あり有る佛の

馬出町

岩濠八幡宮ありあふあり町の長二町五十二間あり
世町の末にありきより西に那珂郡と東に新井郡とあり八幡宮の西
の側あり横谷河に於て那境と云世所と馬出と号し一むし八幡の
神靈性多夷の社とて下向し如子附世所あり信奉の人衆多し
此寺ハ如子を名とせり世地昔に望新村の境内ありと云

妙徳寺 曹洞宗

今山と号し又祥年あり馬出村にあり千光國師宗和宗より始り始て
傳也と云傳へあり重福と云此の君と云小信也と云馬出にあり
南に奔中町と云傳へあり横谷河にあり千光國師如使と云有る附宗あり
あり一從者の居ありと云其後宗如重福宗小後り從者も今

とて其の及ぶ志の如く之を傳へり之代実録

元年正月廿七日迄外國志實海神小從五位上神如事又く多信

詔ふ之傳ふの志實明神と阿曇磯良丸号し海中小久く位如

細螺石花及清原忠等其身く傳へて有る 神功皇后神樂

と養へて是と振ふ如く形とす小倅位に其比野嶋村童好く物修小志け

誠信しそ平化小初て記し後人附命をり此海に福をく海上之里面小

小つら海中小室をくたつ海をく南の側小民多し田園多しす少小

脚ると云核のく有世海有の道治と云しそく秋日記小菟若園凡て記

と行くと曰 神功皇后新羅小幸し海小時水取身く新由郡邊何

海小海り如く信從の中小之儀小儀と云よの有皇太后小儀小制し海り

遣しそ方と求りしを如くし小求て求海て身く大儀 口記皇神云々他小阿曇の連の祖之儀若孫と云ふ所の

り同く云道家ありや小儀善く曰此海に打岸儀と云ふ儀と云ふ儀と云ふ

けり強口也と云し是く依てを海と云ふ今此て邊何海と云ふ

是くあり神友の首好る山を勝山と云ふ是く皇后之韓と云ふ所と云

小州世海りしあり異國小歩脚如く事と信ひ如くし如く名丹と云

御堂山宮堂山と云勝山と云ふはつらつら志實丸と云山と号す又

海社の西又側小竹林あり是を長生竹と云ふれり

神功皇后の御杖ふまふれ旗竿と云ふ世也小早海りしと云ふ

漸くし竹林と云ふありて或は是は清く旗竿と云ふし舟所

是を海て纒竿と云ふ又志實氏命の馬子と云ふなる海と云の儀

云是は 皇后御政陣の時世儀と云異國征伐と事計ひたり

宮びし如小名竹と云又其せん小儀良海あり 海東秘抄小儀善く勝小細の

不或此小儀善く海ありあり岸は不形と云同名而小 事亦小九海と云右有志實

有ふくひ多れい神樂舞と云ん世新と云し

明神世名と云し海海ふれ海りしと云ふりし 誠信と云傳へるあり如く小

海人世若く形似糸又標槍と云ふ其日皇の御と云世新小如善

事此世の世新の山岸の根潮の端ふ不小海あり是明神の御杖と云水

と云又世所不危石と云元文十一年四月五日危小似あり石二つ治より先東小岳小岳小岳小岳志望明神のよき所
治より東小岳小岳小岳小岳治より東小岳小岳小岳小岳治より東小岳小岳小岳小岳
有し今いねおきり世大岳濱及松多濱の中あり土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
民俗いざはる國道沿の村世傳土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
も尚芳志望宮小岳多あり土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
後述も祭具と云志望多く増り松列郎庫山土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
布小志望多し土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
神功宮世國道沿の村取柵土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
一より新りのり家斎持の靈跡土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
の取人の信作不依土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
畢後小岳山志望十一年十月廿日の
後世古の織物とい治の役と一被
けいね土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
神功宮右の村世所土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
わやわや土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚

世の町修理土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
けきとも漸る二十社の土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
くわらとて末社も土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
此小早川澄土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
ふ今一の社土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
三家あり大宮の列尚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
し今一の祠土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
の苗裔土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
て町とて土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
宜中の社人土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
河友等土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
三の祠土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚
る後或有土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚土器塚

土月四日火災記く文珠の画像を經の肉二十卷全焼矣やうに文珠の
画像は他のつれなき経の焼ゆに於て千餘卷を焼くやうに文珠の事素
海壇玉島小載あり



筑前國續風土記卷之四 那珂郡上終

